

1979年11月25日 (日曜日)

SAKだより



神奈川県スキー連盟
横浜市神奈川区金港町5-13-6
電話 045(431)5435
発行者: 笹貫敏男
編集者: 中村 孝

神奈川県スキー連盟 創立四十周年記念 祝賀会盛大裡に終る!!

昭和14年2月に誕生した県スキー連盟も満40才を迎え、去る10月13日(土)午後4時から横浜シルクホテルのグールドルームで盛大に開催された。

県スキー連盟も現在では、SAJ加盟団体の中、東京、北海道に次いで全国第3位の登録会員を有する組織にまで発展してきた。

これまでの歴史の中で県連役員としてあるいは地区協会で「努力をいただいた関係各位に」お礼を改めて感謝の意を表したい。

当日は全日本スキー連盟伴会長(東京都連 岡沢副会長)、千葉県連(金井会長)を始めとし、遠く長野県や新潟県あるいは、県内から

も設立当時の役員さん等多数の来客を迎へ、厳粛の中にも和やかに進められた。

尚県内からの出席者は会場の関係等もあり有資格者及び地区協会の役員が中心となり、記念すべき祝賀会に一般会員の皆さんにご案内できなかったことは心よりお詫びいたします。

(出席者総数一八八名)

祝賀会式次第
開会の辞 副会長 園山和夫
会長挨拶 会長 河野洋平
来賓祝辞 (財)全日本スキー連盟 伴素彦
会長 (財)全日本スキー連盟 伊黒正次
専務理事

乾杯
副会長 岡沢吉夫
千葉県スキー連盟 会長 金井英一
歴代会長、歴代役員、地区功労者、全日本各種入賞者、協賛会員

表彰者代表挨拶
名譽会長 黒川秋三
贈呈者 名譽会長 黒川秋三
受領 副会長 三塚正二郎
万才三唱 参与 柳沢須佐男
閉会の辞 副会長 松浦益司郎

南関東ブロック代表 東京都スキー連盟 副会長 岡沢吉夫
千葉県スキー連盟 会長 金井英一
歴代会長、歴代役員、地区功労者、全日本各種入賞者、協賛会員



40年の歩みの中には各先輩の適切な指導があり、ご苦労があったことを忘れてはなりません。雪のない神奈川県に誕生した神奈川県スキー連盟が四千名を越える全国屈指の立派な県連となったのは、それぞれの分野ご指導的な役割を果たしてくれたスキー愛好家の皆さま方でありませう。

40年の歴史をもう一度かみしめながら、さまざまな問題に対処し

後輩達の指導やこれから先のことを皆様と一緒に考えたい気持ちであります。

神奈川県スキー連盟 会長 河野洋平

県連会長・全日本スキー連盟会長 専務理事より祝辞



私ははれがましう挨拶を言える身分でなくて、実は県連の横浜協会の一クラブの会員でありまして今日この式典に何らかの役をいただいております。...

今、「アロだとかアマだとか」論争が盛んになっていますが、アマチュアスポーツが生きる道は神奈川県人口は四百万人位のこと、日本は八千万人と言うのでありますので一番多いのではないかと考え、ますます増えていくことと思っております。

神奈川県スキー連盟の40周年に過去の40年の栄光をたたえ益々発展されることを願います。

全日本スキー連盟 専務理事 伊黒正次



- 神奈川県スキー連盟のあゆみ
- 昭和3年、第2回冬季オリンピック大会に日本初参加 (スイス・サンモリッツ)
 - 昭和5年、ハンネス・シュナイダー来日。
 - 昭和6年、第1回世界スキー選手権大会開催 (スイス・ニューレン)
 - 昭和13年、神奈川県下でスキー熱が高まり、スキー連盟設立の動きが始り、準備委員会が発足した。
 - 昭和14年、2月17日神奈川県山岳スキー連盟誕生。代表委員として、佐藤秀三郎氏、高田茂氏、深田久彌氏が就任し活躍した。
 - 3月、第1回神奈川県スキー大会開催 (志賀高原)
 - SAJ、第1回公認指導員検定開催 (五色温泉)
 - 明治44年、新高原高田の金山谷で、オーストリア陸軍少佐ラオドルフ・フォン・レルヒ氏によるスキー技術講習会が開催され、日本のスキー発展を促した。
 - 大正4年、スキー競技会が礼拝で始まった。
 - 大正13年、第1回冬季オリンピック大会開催 (フランス・シャニオー)
 - 大正14年2月15日、全日本スキー連盟 (SAJ) 創立、全日本スキー選手権大会が小樽で開催された。
 - 大正15年、SAJ、FISに加盟。

黒川杯贈呈

去る十月十三日、当県連創立四十周年記念祝賀会の席上で、当県連名誉会長黒川秋三氏より、「黒川杯」ならびにレプリカ五個が寄贈された。

黒川氏は、当県連創立当初からの功労者で、理事、理事長、副会長、SAJ理事等を歴任、昭和四十九年から二年間、県連会長として在任した。

理事会では、「黒川杯」を有難くお受けし、同氏の功績を長く県連内に伝えるため、今後同氏ともご相談のうえ、しかるべき大会の優秀選手に授与することにしていく。



祝電

創立40周年を心からお祝い申し上げます。歴史に輝かしいシニエールを残し新しい時代へ向け飛躍発展されることを期待いたします。

神奈川県知事 長州 一二

創立40周年を皆様と共に祝い申し上げます。今後ますます御発展と各位のご活躍をいります。

全日本スキー連盟副会長 高鳥 修

創立40周年記念の御慶展を祝し、今後、ご二層の御発展をいのり致します。

全日本スキー連盟 基礎教育本部長 浅井清太郎

全日本レベル表彰



栄誉ある式典において、諸先輩様方の前で名譽ある表彰を受けました。心からありがたく思っています。

横浜スキークラブ 小関 晟

四十周年祝賀会表彰者 (敬称略)

- 歴代会長 佐藤 秀三郎、小 金 義 照、黒 川 秋 三
- 歴代役員 石 田 兵 一、北 田 倉 吉、北 田 倉 吉、土 田 英 吉、小 林 英 吉、星 野 見 吉、石 橋 文 夫、石 崎 文 夫、細 井 健 吾、洲 崎 一 郎、川 崎 協 会 関 係 者 柳 須 次 郎、柳 須 次 郎、萩 原 芳 博、萩 原 芳 博、西 谷 輝 夫、内 堀 秀 夫、清 水 清 夫、本 田 清 夫、本 田 清 夫、布 田 久 雄、(川崎協会関係) 村 上 駒 雄、清 野 伴 五 郎、小 中 正 実、田 中 正 実、吉 水 春 翁、(相模原協会関係) 石 川 嘉 夫、小 林 幹 夫、(藤沢協会関係) 安 川 良 彦、小 林 俊 輔、朝 倉 勇、(鎌倉協会関係) 小 林 敬 一、鏡 孝 作、高 橋 辰 夫、(逗子協会関係) 大 久 保 早 苗、押 川 泰 夫、○全日本各種入賞者 小 関 哲 子、石 塚 久 子
- 地区功労者 楓 山 一 郎、細 井 健 吾、石 崎 文 夫、星 野 見 吉、小 林 英 吉、土 田 英 吉、北 田 倉 吉、北 田 倉 吉、柳 須 次 郎、仲 尾 須 次 郎、柳 須 次 郎、萩 原 芳 博、萩 原 芳 博、西 谷 輝 夫、内 堀 秀 夫、清 水 清 夫、本 田 清 夫、本 田 清 夫、布 田 久 雄、(川崎協会関係) 村 上 駒 雄、清 野 伴 五 郎、小 中 正 実、田 中 正 実、吉 水 春 翁、(相模原協会関係) 石 川 嘉 夫、小 林 幹 夫、(藤沢協会関係) 安 川 良 彦、小 林 俊 輔、朝 倉 勇、(鎌倉協会関係) 小 林 敬 一、鏡 孝 作、高 橋 辰 夫、(逗子協会関係) 大 久 保 早 苗、押 川 泰 夫、○全日本各種入賞者 小 関 哲 子、石 塚 久 子
- 協賛会員 照 井 万 貴 子、中 野 惠 子、山 田 隆、戸 隠 村、戸 隠 高 原 ホ テ ル、和 田 山 荘、志 賀 サ ン パ レ ー、万 座 高 原 ロ ッ チ、白 根 ホ テ ル
- 感謝 状 ヨ コ ハ マ ヤ 運 動 具 店、ス キー の K 2、松 浦 ス ポー ツ、金 港 ス ポー ツ
- マルセイスポーツ、ハタノスポーツ、杉山スポーツ、セクターグルル、KK実工設計、大和観光興業KK、東急観光、日通航空横浜旅行センター、湘南ミッショントリミング



県連役員功労者

歴代会長



協賛会員

地区功労者

昭和15年 1月 第2回神奈川県スキー大会が、明治神宮国民錬成冬季大会予選をかねて志賀高原で開催された。全国大会に初参加。

昭和16年 3月 戦後初の県スキー大会を赤倉スキー場で開催、参加者は約100名、工場団体の参加者が多かった。

昭和22年 1月 県スキー大会が、団体予選、都市対抗戦をかねて志賀高原・上林で開催された。会長に大仏次郎氏就任。

昭和23年 連盟活動も軌道にのり、県内各地に協会が設立された。競技スキーとは別に、一般スキーヤーが増加し、連盟もスキー部と山岳部を設け、個別に活動し始めた。

昭和24年 会長に尾関広氏就任、理事長黒川秋三氏。

昭和25年 県民スキー講習会が初めて開催された。

昭和29年 県大会等の会場が赤倉から関山に移り、益々盛大になった。野沢園地で松浦益司氏が5位に入賞した。5月 山岳部とスキー部が分離独立し、スキー部は、神奈川県スキー連盟となった。会長に佐藤秀三郎氏就任。

昭和30年 2月 旭川園地で10位になった。

昭和31年 第7回冬季オリンピック大会(イタリア・コルチナダンベツォ)で選抜選手が回戦2位となり、日本選手初のメダリストとなった。トニー・ザイラー、アルベン種目3冠王となる。

昭和33年 県大会会場を野沢スキー場に移した。黒川秋三氏、SAJ理事に就任。理事長に石田久夫氏就任。

昭和35年 ルディ・マット氏(オーストリア)来日

昭和37年 ルディ・マット氏(オーストリア)再来日 三塚正二郎氏、SAJ理事に就任。

昭和38年 グルッゲン・ハウザー氏(オーストリア)来日 県大会会場を鳴子スキー場に移した。

昭和40年 県大会を西山スキー場に移し開催。会長に丸山吉次郎氏就任。理事長藤沢須佐男氏。県連の加盟団体が、クラブから協会になった。

昭和41年 県大会と都市対抗スキー競技会が個別に開催された。石田久夫氏、SAJ理事に就任。理事長に園山和男氏。

昭和42年 県連事務所を県立三沢スポーツ会館内に移設、在局日制度発足。

昭和43年 県大会会場を石打スキー場に移した。県下のスキー人口が順次増加し、所属団体(クラブ)125、SAJ会員登録者2,190名となった。連盟会長に小金義照氏就任。松浦益司氏、SAJ理事に就任。流業園地で男子、全国10位となった。入賞者、距離 成年男子 2位 岩谷 俊一、大回転 教員男子 4位 佐々木 峻、成年男子 7位 大向 実

昭和44年 所属団体143、SAJ会員登録者2,424名。

昭和45年 県大会会場を八海山スキー場に移した。白馬園地での入賞者 距離 成年男子 2位 岩谷 俊一、大回転 教員男子 3位 佐々木 峻

昭和46年 所属団体140、SAJ会員登録者2,650名。松浦益司氏、園山和男氏、SAJ理事に就任。県連で初めて、山田隆がSAJデモンストレーターに認定された。

昭和54年度 定例評議員会終る



理事長 笹貫 敏男

満場一致で承認

去る七月二十二日午前十時より県政総合センターにおいて、昭和五十四年度定期評議員会が開催された。

園山副会長の開会のことばの後、藤沢の平田氏が議長に選出された。次いで笹貫理事長から昭和五十三年度の活動について総括的な報告があり、登録会員ならびに行事参加者の減少、事務所移転、四十年記念行事の準備状況等が報告された。さらに、井駒、柴田、藤田の三部長から、総務、普及、強化部関係の一年間の活動について、詳細に報告された。続いて加藤理事から決算報告、久保田監事から監査報告があり、若手の質疑応答の後、評議員会は、満場一致で各報告を承認した。

続いて議事に入り、理事長ならびに各部長から昭和五十四年度の執行方針、重点事項、各部計画、予算ならびに四十年記念行事に関する件の提案があり、審議の結果、原案どおり決定し、午後十二時二〇分閉会した。

主な決定事項は次のとおり。
一、執行方針
(一) 明るい果実づくり
(二) 会員クラブの立場に立った執行
二、重点事項
(三) 将来の果実のために執行
(四) 創立四十周年記念行事の開催
(五) 事務所取得の方向の確認
(六) 特別会員制度の検討
(この件に関しては、十月の理事会において、制度の将

用を決定した。詳細については、次期評議員会に提案の予定)採

(四) 事務所整備と事務処理要領の改訂
(五) 指導員再設置の検討
(六) 行事開催場所を推しようセンター中心に活用する方向の確認

三、行事計画(別表のとおり)
四、収支予算総額
二六、六四五、七一七円
昨年決算額比約一六五万円増
一所属団体あたりの負担金は、二、〇〇〇円アップの一万円が承認された(この金額には、協会分の負担金は含まれていない)

来年は役員改選の年に当ります。現役員の任期は、来年七月迄です。が、規程により、次期役員を選任する評議員会は、来年五月十五日に予定されています。各協会は、次期役員候補を準備するとともに、役員候補の選手にあたる選考委員の人選を急ぐようお願い致します。
なお、第一回役員選考委員会は、十二月六日(木)、午後七時から県連事務所で開催の予定です。

SAJ評議員会開催

昭和五十五年秋予定評議員会は、十一月二十三日、東京渋谷の青年センターで開催され、当県連から笹貫理事長・片岡副理事長が出席した。主な議題は、昭和五十四年度業務報告ならびに決算、昭和五十五年事業計画ならびに予算、諸規程の改訂等である。

登録状況

昨年度までは協会事務担当者会議の場において、各種登録手続を行っていたが狭い事務所でのこと15協会の担当者らと連携が椅子にすわるだけが精一杯のありさまで、順番を待つ時間もバカにならなかった。

今年度は、狭い事務所を広く有効的に利用していくため、又、あつてはならない手続上のミスを無くすためにも、協会別に登録手続日を指定し第一回登録を終った。十一月十三日現在の登録状況は次の通り。

- 団体登録 一六六名
- 会場登録 三、六四九名
- 有資格者登録 一、二〇名
- 指導員 五七名
- 競技関係 三三名
- 公バト 二三名
- 新規所属団体 七団体

- △横浜協会
アイスクリークラブ
会長 宮本賢治(登録会員2名)
日本アビオロニクススキー部
会長 狩野幸平(登録会員16名)
クリスタルアイススキークラブ
会長 加藤信子(登録会員3名)
- △新潟県協会
フォークロバーズスキーチーム
会長 寺門 洋(登録会員35名)
I B M 藤沢スキー部
会長 宮本広行(登録会員10名)
- △平塚協会
厚木自動車部品スキー部
会長 石田隆二(登録会員13名)
- △座間協会
ザマ・アドベン・スキークラブ
会長 田中純一(登録会員13名)

日赤救急員 正規養成講習会終る

スキーにおける傷害防止の一環として、今年も日赤救急員の養成講習会を十月二十一日、二十八日、十一月三日、四日の四日間にあたり、文体平沼レストハウスと勤労会館で行った。今回の参加者は、三十四名であり、その中に十二名が女性であり、例年にない女がかな勢であった。

最終日に、この講習会の成果と救急員としての資格を取る学科と実技のテストが行われ、救護運搬で重い人を運ぶ息を切る人もいたが、全員がテスト種目を完了し、三十三名の方が合格をした。

なお、今回の講習会に協力をして下さった日赤指導員の方、県連傷対策員の人たちに厚くお礼を申し上げます。

"TAJS指導員ライセンス改訂" (ただし指導員だけ)

従来のライセンスは、四年で再交付となっており、大巾な改訂となりました。



ポイント制度今年度より採用

シーズンも近くなり今頃は陸上トレーニングの最後の仕上げの頃かと思えます。競技関係も来るべきシーズンには会員の皆さんに満足ゆく大会をと連日頑張っております。

上は一シーズンに大回転、回転の競技会に参加しなくてはなりません。そして最も良いポイントの平均値がその選手のポイントになります。このポイントのない選手は第4シード以降の出発順位となります。

県内の大会も今後更に充実させ、各種の大会、合宿を増やし、今後はレベルアップに努力するつもりです。そのためには選手の方々の自覚と努力が必要であり、今シーズンにはどうも少くもポイントを得るべく頑張ってください。

賠償責任保険 二案内

日頃スキーを愛好されておられる皆様方により安心して楽しんで頂く為、皆様方下記の保険をおすすめさせていただきます。

最近の社会情勢からみましても、単なる「ごめんなさい」の言葉では済まなく、民事まで波及する事故もしばしばあります。

どうかこの様な事に対処し、さらに日常生活でも皆様方を守り、下記の保険にご加入されたらお願い申し上げます。

- 一、管理者賠償責任保険
たとえば先生方が管理中に指導ミスで生徒さん方が怪我をした時。
- 二、保険料(年間) 身体賠償 免責(事故一〇〇〇円) 一、〇〇〇円
- 三、身体賠償 一名当りの限度額 一〇〇〇万円
- 四、一事故 五〇〇〇万円
- 五、年間 五〇〇〇万円
- 六、財物賠償 一事故当りの限度額 一〇〇万円
- 七、二、個人賠償責任保険
たとえば先生方自身がスキー中に他人に怪我をさせた時。
- 八、(免責) 事故一〇〇〇円
- 九、賠償額 一〇〇〇万円
- 十、その他担保される賠償事故

例

- ① 自転車や乗車道中道に飛び出した子供に怪我をさせた時
- ② スキー等買付中に誤って商品をこわした時
- ③ グルブをしていて他人に怪我をさせた時
- ④ 愛犬が他人にかみついた怪我をさせた時
- ⑤ 子供が駐車場を遊んでいてそこに車を破損させた時

以上、家族全員(同居の親族が破産者になれるお得な保険の安心が保たれます。

三、申込み方法

- 県連事務局(局日)火・木に常時行っております。
- 申込みは各クラブ単位で所定の用紙を使用して下さい。

| | | | |
|-------|--|-------|--|
| 昭和47年 | 国体入賞者 大回転 成年男子 4位 大向 実 所属団体 147, SAJ会員登録者 2,969名。 県大会会場を梅池スキー場に移した。 所属団体 143, SAJ会員登録者 3,220名。 園山和男氏、鈴木忠昭氏, SAJ理事に就任。 この年、第11回冬季オリンピックが札幌で開催された。日本初めての冬季オリンピックの70m級ジャンプに笠谷、金野、青地の3選手が1, 2, 3位をしめメダル独占を果たした。 | 昭和50年 | 所属団体 146, SAJ会員登録者 3,370名。 7月 連盟会長に黒川秋三氏就任, 理事長橋山一登氏。 松浦益司郎氏, 鈴木忠昭氏, SAJ理事に就任。 県大会会場を飯山スキー場に移した。 SAJデモンストラータ認定者 小沢 哲 国体入賞者, 大回転 成年男子 5位 上 山 利 治 教員 6位 佐 藤 茂 暢 " 女子 2位 成 田 伊 予 子 " " 5位 石 塚 久 子 |
| 昭和48年 | 所属団体 145, SAJ会員登録者 3,218名。 SAJデモンストラータ認定者, 小沢 哲 | 昭和51年 | 県大会会場を戸原高原スキー場に移した。 SAJデモンストラータ認定者, 小沢 哲 国体入賞者 大回転 教員男子 4位 佐 藤 茂 暢 " 教員女子 4位 佐 藤 い 子 所属団体 167, SAJ会員登録者 4,199名。 7月 連盟会長に河野洋平氏就任, 理事長佐貫敏男氏。 SAJ理事, 空席となる。 SAJデモンストラータ認定者, 小沢 哲 |
| 昭和49年 | 国体入賞者 距離 成年男子 7位 菅 原 邦 雄 | 昭和52年 | 大回転 成年男子 3位 小 関 辰 " 教員男子 4位 佐 藤 茂 暢 |
| | | | 所属団体 153, SAJ会員登録者 3,753名。 三塚正二郎氏, SAJ理事に就任。 |

関連行事一覧

Table of related events including SAK Jデモ選考会, SAK Jデモ選考会, SAK Jデモ選考会, etc. with dates and locations.

(注) 申込期間はSAK事務局到着期限で、各所属団体の提出日ではありません。

協賛会員一覧

- List of sponsors including ヨコハマ運動具店, 銀座・新宿K2アパレル, 東急観光, etc.

野口稔氏優勝

Second annual SAK Golf Competition results, mentioning the victory of Shinichi Nozaki.

指定宿舎

Table of designated accommodations for ski fields: 戸隠スキー場, 万座スキー場, 八海山麓スキー場, etc.

注意 今年協定料金を決めていませんが、県連会員である事を明示することによりサービス料金があります。(一部宿舎のみ)

編集後記

Editorial note regarding the 40th anniversary of the ski association, mentioning the year 1914 and the current year 1979.

伝言版

Message board section with information about the ski association's 40th anniversary and membership details.



Membership statistics and organizational updates for the Kanagawa Ski Association, including member counts and committee changes.

昭和53年

昭和54年